

# 司風園

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第52号 2004年12月1日

冬季 特別巡回展 展示資料見聞

## 発掘された日本列島2004—新発見考古速報展—

平成16年12月4日(土)～平成17年1月10日(月・祝)

3階総合展示室・1階企画展示室で開催

文化庁・高知県立歴史民俗資料館他開催館6館・発掘された日本列島展実行委員会の主催で「発掘された日本列島二〇〇四—新発見考古速報展—」を平成一六年一二月四日(土)から平成一七年一月一〇日(月・祝)まで開催します。

この展示は、最新の発掘成果をできるだけ早く多くの方々に見ていただき、埋蔵文化財の重要性について理解していただくことを目的として毎年開催されています。本年度の展示資料は、約八〇〇点です。

展示資料の中から一つを紹介しましょう。子供たちも良く知っている古墳時代後期の埴輪が展示されます。この埴輪は、群馬県で発掘されたものです。左端は、高さ約一〇二cmの馬形埴輪、その右は高さ約六三cmの人物埴輪です。馬形埴輪の前に立っていたことから馬飼いや人と考えられます。その右は、人物埴輪(女子・男子)で高さ約八〇cmです。他に六つの埴輪を展示します。



群馬県の馬形埴輪と人物埴輪  
(群馬県吉井町 中原Ⅱ遺跡1号墳 古墳時代後期 一五〇〇年前)

特別巡回展

発掘された日本列島2004

—新発見考古速報展—のみどころを語る

期間 平成二六年二月四日(土)〜平成二七年二月二〇日(月・祝)

司会 学芸専門員 泉 誠司

学芸課長 岡本 桂典

学芸専門員 野本 亮

学芸専門員 中村 淳子

主任学芸員 梅野 光興

早坂平遺跡

青森県深浦産の黒曜石のナイフ形石器



東北日本海側産の頁岩のナイフ形石器



巻頭で紹介しましたように高知県立歴史民俗資料館で、文化庁・当館と他開催館6館・発掘された日本列島展実行委員会主催による「発掘された日本列島二〇〇四―新発見考古速報展―」が開催されることとなりました。そこで特別展のみどころを学芸員による座談会風にまとめてみました。

司会 「発掘された日本列島二〇〇四―新発見考古速報展―」は、歴史館では二回目となりますね。以前の「新発見考古速報展96」では、大きな家形埴輪をみて感動しました。

岡本 第一回目は、平成八年度に開催し、開館して初めての大きな特別展となりました。本館の企画展示室は、約一七〇㎡と狭く、とても入りきらないので三階総合展示室の展示ケース内の常設展示資料を撤去し行いました。一九日間、七、三五八人の方にご覧いただきました。

今回の特別巡回展「発掘された日本列島二〇〇四―新発見考古速報展―」も三階の常設展示資料を撤去して展示

します。この期間中は、大変申し訳ないのですが、常設展示は二階の民俗展示室のみとなります。但し、特に人気のある坂本龍馬コーナーは、企画コーナーで展示しようと思います。

野本 本年度は、六月一日に東京都江戸東京博物館での開催を皮切りに群馬県立歴史博物館・花巻市博物館・石川県立歴史博物館・奈良市美術館で開催、そして十二月四日から当館、その後神戸市立博物館において開催の予定です。例年数多くの資料が展示されてきましたが、本年度の展示資料はどのくらいあるのですか。

岡本 本年度は、旧石器時代から近代にいたるまでの三五遺跡、約八〇〇点の遺物やパネルが展示されます。

中村 美術専用車で運ばれてくると思いますが、かなりの量になりますね。岡本 四トンと一〇トントラックの二台分くらいになると思います。箱にする資料を含めて三〇〇箱くらいでしょうか。

中村 資料検認だけで、二日はかかりそうですね。

梅野 本年度は、チラシを見ると展示資料が例年より多いような気がするのですが。

岡本 一九九五年に「発掘された日本列島―新発見考古速報展―」が始まって本年度が、一〇年の節目の年となります。そこで、これまでに展示された三四六遺跡の中から情報発信を続けている遺跡を各時代から一つ選んで、過去の展示品、展示後の調査成果、遺跡の現在の状況などを展示します。

梅野 ということは、「発掘された日本列島二〇〇四―新発見考古速報展―」とテーマ展示「あの遺跡の今」そして「地域展」の三部構成となっているということですね。司会 展示資料の一部を紹介してください。

岡本 旧石器時代では、岩手県山形村早坂平遺跡の約二三、〇〇〇年〜一三、



東北地方から出展される遺物の出土遺跡

しており、人と物の移動を知る貴重な遺物です。あと西日本の旧石器時代終末の姿を知ることのできる遺跡として岡山県八束村東遺跡があります。この遺跡では細石刃と尖頭器の製作跡が隣接してみつかっています。出土した細石刃石器や尖頭石器を展示します。

梅野 この時代の人と物の動きが、石器からわかるのは、すごいですね。司会 縄文時代ではどのような遺跡の出土遺物が展示されますか。

岡本 約三、〇〇〇年前の縄文時代晩期遺跡として有名な青森県八戸市是川中居遺跡からは、当時のムラの中の沢から出土した漆製品や、ひとまとめにくくられた状態で出土したサケを獲るために使ったヤス、そして弓・掘り棒などが展示されます。

中村 やはり低湿地では、植物性の遺物が残るのですね。ヤスですか、すごいですね。当時の漁法がわかりますよね。それから秋田県の遺跡から出土した資料にサルのような人面のようなものがあるようですが。

岡本 秋田県森吉町漆下遺跡の約三、五〇〇年前、縄文時代後期の残存高七・六cmの人面（猿面）ですね。口をところがらせたユーモアな表情をしています。実は、土器の口縁部につけられた装飾と考えられています。他に、千葉県佐倉市井野長割遺跡では、約三、五〇〇



井野長割遺跡の異形台付土器

年前から二、五〇〇年前の縄文時代後期から晩期の大規模な七〜八基の盛土遺構と中央の窪地を囲む環状盛土遺構が確認されています。土偶など多様な遺物とともに住居跡からは、用途不明の異形台付土器が出土しています。司会 東北や関東地方の珍しい土器や土偶が展示されるのですね。弥生時代の資料について紹介していただけますか。

岡本 弥生時代の開始年代は、五〇〇年さかのぼる、紀元一、〇〇〇年という研究が発表され、大きな反響がありました。しかし、まだ検証途上にあり、今回の「発掘された日本列島展」では従来の説を用いています。

『魏志倭人伝』に記載のある奴国の

安徳台遺跡の二基の甕棺（中に人骨）



首長クラスの墓とされる福岡県那珂川町安徳台遺跡では、甕棺墓二〇基が確認されています。その内、約二、一〇〇年前の弥生時代中期の弥生人男女を埋葬した甕棺二基（高さ一一五cm）が展示されます。男性の甕棺に副葬されていたゴホウラ製貝製釧（プレスレット）四三点と勾玉三点、管玉三四〇個、

男女の甕棺からは中国で死者の耳や鼻などの穴に詰める葬具として使われた四・五cmの塞杆状ガラス器が展示されます。日本では、髪飾りの装飾品として用いられたと考えられています。福岡県前原市潤地頭給遺跡からは、伊都

国の大規模な玉造工房から出土した碧玉や水晶・メノウの三種類の製作過程がわかる資料があり、これらを展示します。

司会 容器に納められた弥生時代の特殊な勾玉が展示されるようですが。

岡本 奈良市田原本町の約二、〇〇〇年前の弥生時代中期の唐古・鍵遺跡からは、褐鉄鉱という自然の鉱物に納められた新潟県姫島産ヒスイ製勾玉二個（四・六cm、三・六cm）が出土しています。中国の不老長生を願う神仙思想



唐古・鍵遺跡のヒスイ製勾玉

の影響を受けたという説がある資料で、弥生人の精神生活を考える上で論議を呼ぶものです。

司会 旧石器時代から弥生時代まで見えてきましたが、なかなか見応えのある

遺物がありますね。次に古墳時代の展示資料について紹介していただきたいと思えます。やはり、私としては是非子供たちに見てもらいたいのが、埴輪です。教科書でしかみられないものだからね。

岡本 一頁目にも紹介した群馬県吉井町中原Ⅱ遺跡一号墳から出土した約一、五〇〇年前の古墳時代後期の武器・武具、人物・馬などの形象埴輪が目をひく展示資料ではないでしょうか。

中原Ⅱ遺跡一号墳  
家形埴輪



次に、約一、四〇〇年前の古墳時代後期の大阪府河南町シヨツカ古墳について紹介しましょう。この古墳は、切石を用いた横穴石室としては古いもので、豪華な副葬品が出土しています。銀象嵌円頭大刀柄頭・鞘口金具、挂甲（古墳時代の鎧）小札片、金象嵌鞍金具片、金糸・銀糸、ガラス小玉一、〇六七点、甕に納められた高坏、そして漆塗籠棺片の出土品が展示されます。司会 見るのが楽しみですね。古代ではどのような資料が展示されるのですか。

岡本 まずは北海道の資料から紹介しましょう。北海道恵庭市西島松5遺跡からは、七世紀から九世紀（北海道では続縄文期から擦文期と呼ぶ）の中頃シヨツカ古墳

(右) 鞘口金具  
(左) 銀象嵌円頭大刀柄頭



の九〇基の墓地が確認されています。墓の副葬品には、甕や鏃、鐮子（ピンセット）や本州から持ち込まれた大刀が出土しています。これらも展示されます。野本 古代寺院関係で注目された資料はありますか。岡本 奈良県奈良市の大安寺境内の西塔跡の基壇が明らかになり、そこから塔の屋根を飾る相輪の金銅製水煙の一部や金銅製の塔の屋根の隅木を飾ったと思われる風鐸と風招が出土しています。

す。約一、二五〇年前の奈良時代のものです。

野本 水煙はかなり大きなものではないですか。

岡本 高さは八四cm、幅三四cm。厚さ

大安寺  
水煙の一部分



風鐸



二cm、重さ二二kgがあります。これも展示されます。もう一遺跡、京都府亀岡市丹波国分寺跡から出土した、唐三彩をまねて日本で作った高級な焼きものである奈良三彩の火舎（居香炉）、平安時代の隋花双鳥文八稜鏡や軒丸・軒平瓦が出土しており、これらが展示されます。野本 役所関係の資料はあるのでしようか。

岡本 直接官衙関係のものではないのですが、みちのくの古代都市宮城県多賀城（多賀城市）の南に広がる約一二〇〇〜一〇〇〇年前の市川橋遺跡からは、南北と東西に走る大路と橋、街並みや畑跡が確認されています。そこからは多種多様の遺物が出土しています。馬に乗るときに足を乗せる壺鏡、刀子、鉄刀、骨製品、土製人形、東海地方産の緑釉緑彩輪花皿片、下駄、挽物、曲物蓋、墨書人面土器、絵馬などが出土しています。

中村 え！絵馬ですか。

岡本 平安時代前期の絵馬です。

野本 墨書人面土器とはどのようなものですか。

岡本 穢れを封じ込めて水に流してしまおうというまじないに使われた土器と考えられています。素焼きの甕に墨で顔を描いたもので、澄まし顔、恐ろしい表情の顔など様々な表情の顔があります。ちよつと笑ってしまうかも知れませんがね。河川など水に関わる所から出土しています。それからもう一遺跡石川県七尾市七尾海岸の小島西遺跡から二〇、〇〇〇点に及ぶ木製祭祀具が出土しています。国府関係の祭祀場だったのでしようか。汚れは、海のかなたへと流したのでしようか。獣骨もみつかっていることから生贄の祭祀もしていたのでしようか。



市川橋遺跡 まじないの土器（墨書人面土器）

野本 中世・近世考古学の成果についてはどうでしょうか。

岡本 青森県市浦町には、本州最北端の中世の港町として知られる十三湊遺跡があります。砂州上に作られた港湾都市遺跡で、領主館の区画溝跡や町屋跡、檀林寺跡、船付場跡などが確認されています。鎌倉〜室町時代にかけて港湾都市として繁栄、それらを物語る中国産天目茶碗や古瀬戸碗などが出土しています。

野本 源義経が蒙古に渡ったという伝説のある港の遺跡ですね。中世の祭祀や出土銭についてはどうでしょうか。

岡本 東京都伊豆大島の南に浮かぶ利島の阿豆佐和気命神社境内祭祀遺跡か

らは、一二世紀後半に構築されたと推定される石造小祠が五基見つかったいます。出土品では、奉納された一二一六世紀の和鏡、常滑や古瀬戸の陶器、室町時代の狛犬片も出土しています。

海上交通の安全を祈願したのでしょう。出土銭では、新潟県柏崎市東原町遺跡からは、南北朝時代の珠洲の壺に入った一〇、六四七枚の銭が見つかっています。銭はすべて展示予定です。沖縄

野本 チラシに金箔瓦が載っています。だが、あれは大坂城跡の瓦ですよ。岡本 大坂冬の陣に関する外堀から出土した資料で、堀は冬の陣講和後に埋められたとされ、金箔瓦や子孫繁栄の祈禱札など多種多様な遺物が出土しています。刀傷のある頭蓋骨なども出土していますね。

大坂城跡 金箔瓦



一〇周年特集テーマ展示へあの遺跡の令司会 展示のみどころについて紹介してください。

岡本 各時代ごとに、過去に特に注目された遺跡を七箇所選び、最新の情報も含め展示します。旧石器時代では、新潟県津南・中里遺跡、日本中の考古学ファンをうならせた青森県三内丸山遺跡の縄文文化、その中から土偶や木柱・魚骨などを展示します。

野本 古墳時代では、群馬県から古代の豪族の居館との関連が指摘される保渡田古墳群と豪族居館の資料を展示します。盾持埴輪、甲冑形埴輪・壺形埴輪、木製鋤、木製の飾り弓などがあります。

野本 古代では、歴史を書き換えるような発見が続いている奈良県の飛鳥古京の諸遺跡から植山古墳、酒船石遺跡の切石・レプリカの亀形石槽、飛鳥池工房遺跡の富本銭や富本銭の鍔棹などを展示します。中世考古学の成果として、水中考古学の成果を取り上げています。嵐に散った元軍船、蒙古襲来（元寇）の遺跡、長崎県鷹島海底遺跡を紹介します。海底から見つかった「つつはう」

野本 展示のみどころは、うれしいことですね。何か私もワクワクします。子供達にも、是非みてほしいですね。岡本 古代から近世までの新発見資料、そのロマンに浸ってみてはどうでしょうか。多数のご来館をお待ちしています。

（炸裂弾）、沈没船の船体・銅銭などがあります。近世〜近代考古学の成果としては、東京都新橋駅の汐留遺跡を紹介いたします。大名屋敷跡や、明治五年の新橋の停車場の跡などが確認されています。一〇枚前後の切符が出土しています。

野本 地域展は「土佐を掘る1」を高知県教育委員会・高知県文化財団埋蔵文化財センターとの共催で企画展示室で展示します。テーマ展示と関連して土佐市居徳遺跡で出土した殺傷痕のある人骨など、その後の研究で明確になつてきたことなどを中心に展示します。土偶や木製品の一部、祭祀関係の資料についても展示を予定しています。



土佐市居徳遺跡 居徳人骨

野本 展示のみどころは、うれしいことですね。何か私もワクワクします。子供達にも、是非みてほしいですね。岡本 古代から近世までの新発見資料、そのロマンに浸ってみてはどうでしょうか。多数のご来館をお待ちしています。

# 「ぼくの村は山をおりた」

AGAIN展

10月1日(金)～10月31日(日)

中村 淳子

田辺寿男さんの写真展「ぼくの村は山をおりた」が、県民の有志によって開催されました。平成一年の当館企画展のAGAIN展で、高度成長期に高知県東部の山村が平野部へ集団移転する様子を撮影した田辺さんの一連の写真群の展示です。

会場の「草流舎」は、和紙で名高いの町にある大正時代の民家を活用したギャラリーです。風情ある古民家の中で、田辺さんの写真が和紙の干板等



に展示され、当館の白い展示壁で見るのとは、また違った趣がありました。草流舎のオーナーは郷土玩具作家のご夫妻で、写真と一緒に張り子や土人形を飾り小さな草花も活ける等、とても風流でした。

では、ご覧になった方の感想を、会場のノートから見てもみましょう。

「自分の小さいころを思い出しました。心あたたまる写真、とつてもすてきです。」(M・Tさん)、「現在の舗装された道や風景とは違う力強く生きて生きとした風景・人に感動しました。記憶にはないけれど、どこか懐かしい気分になりました。」(Nさん)

ご来高中に立ち寄られた民族文化映像研究所長の姫田忠義さんは、「今日の山村を省察するに貴重な鏡となる写真を見せていただき、ありがとうございます。ありがとうございました。」と、記されていました。本展を主催した「田辺寿男の写真をみる会」の片岡千歳さんも、「こんな澄んだひとみの少年をよく撮っていてくださったことよと、そのことを田辺さんに感謝します。」と、田辺さんの写真との再会の喜びを綴られています。閉幕した企画展を、県民の皆さんが再び開催してくださるのは、有難いことです。当館は、皆さんの心に残る企画展をこれからも頑張つて提供していきたいと考えています。

## 土佐の民具15

### ミズブネ

坂本 正夫

山村には井戸がなかったので山腹やサコ(沢)の水、谷川の水などを竹や木で造った掛け樋で屋敷内へ引き込んで使っていました。

こうして引き込んだ水を溜める水槽はミズブネ(水舟)、フネガア(舟川)あるいはフネゴウ(同)などと呼ばれていました。フナイ(舟井)、ツルイ(釣井)と呼んでいた所もあります。掛け樋の取水口はイズミ(泉)、イズミノモト(泉元)、ミナクチ(水口)、ユグチ(井口)、ヒノクチ(樋の口)、シミズ(清水)、イケ(池)、ツルイ(釣井)、ツルイノモト(釣井の源)など、まことにさまざまな名前と呼ばれています。各戸が別々に引いているものと近隣が共同で引き、途中から分流させているものがありました。

ミズブネ(水舟)は二m近い大木の丸太を、たんねんに舟型に削り抜いたもの(板製の箱型のものや桶型のものもありました)ですが、主に松材が使われていました。素材になる木が身近に得られるし、その造り方が割合単純だったので、たいがい職人に頼ることなく自家製造していました。

ミズブネの水は飲料水になるとも

に食器類を洗ったり、衣類などの洗濯や風呂水などにも使用されていましたが、今では木製のミズブネを見ることはできなくなりました。

なお、長さ八〇cmぐらいの松の丸太を削り抜いた容器が、牛馬に飼料を与えたり水を飲ませたりするのに使われていましたが、これはウマノミズブネ(馬の水舟)とかウマノフネ、ギャブネ(駄屋舟)などと呼ばれていました。



高岡郡越知町小日浦で見かけたミズブネ (一九七四年)

# 職場体験 今年もチャレンジ

歴史民俗資料館では、中高生の職場体験学習を受け入れています。

職場体験学習は、平成十二年度より学校現場でスタートした「総合的な学習」や「校外活動」の授業を利用し、地域の学習や進路学習の一環で事業所を訪れ、数日間業務を体験する学習です。歴史民俗資料館でも学校の要望に応じ、職場体験の実習生を受け入れてきました。

歴史民俗資料館では、館の様々な業務を体験してもらうために、受付、公園管理、学芸員の仕事をそれぞれ体験してもらいました。受付での接客業務は緊張の連続だったそうです。また、職場体験期間中に、ワクワクワークなどの催し物があつた場合、準備から後片づけまで職員と共に運営に携わったこともありました。昨年度は、初めて企画展の一部のケースを任せ、展示を行いました。今年も生徒さんたちは展示を観る立場から、展示する立場となり、資料の高さ、角度、ケースの照明などを真剣に考えていました。その生徒さんたちの姿がとても印象的でした。平成十二年度からの職場体験実施校は次の表のとおりです。

平成	学 校 名	人数
12年度	高知県立高知東高校	2
	高知市立一宮中学校	4
	高知市立城北中学校	3
13年度	高知県立高知東高校	2
	高知市立一宮中学校	4
	南国市立北陵中学校	4
14年度	高知県立高知東高校	2
	高知市立一宮中学校	2
	高知市立城北中学校	3
	南国市立北陵中学校	2
15年度	高知県立高知東高校	2
	南国市立北陵中学校	4

今年度は、既に一校が職場体験学習を終えています。七月二日(木)から二四日(土)の三日間、高知県立高知東高校一年生、男子四名が職場体験学習で歴史館にやってきました。

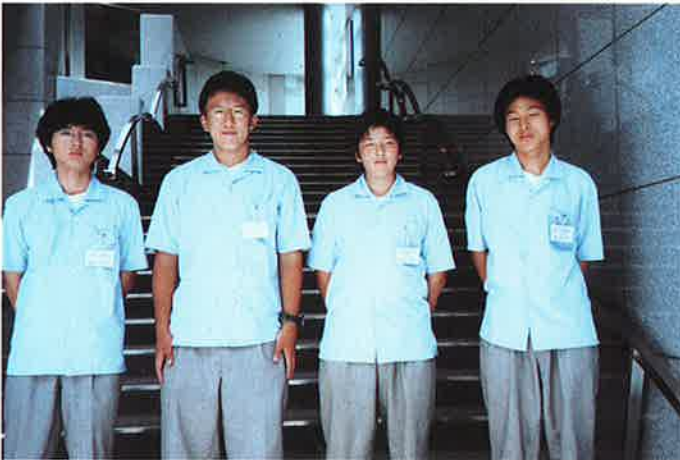
職場体験期間中が特別展「土佐国分寺―四国八十八ヶ所霊場①―」の準備期間にあたり、国分寺出土瓦四点の展示を担当してもらいました。

初日は、館の概要説明を受け、施設見学を行った後、受付の業務を体験しました。接客の経験は誰もなく、外国人の来館者もあり、やはり緊張の連続だったそうです。

二日目より、国分寺展の出土瓦の展示に取り組みました。まず、展示室に掲示する解説文、キャプションづくりからです。国分寺の説明について、資料室より国分寺や古瓦に関する図書を

探し、調べる作業に取り組みました。簡潔な文章表現で来館者、誰もが理解できる説明文、四人が知恵を合わせて考え、パソコンに入力していききました。何回か書き直した後、説明文ができあがりました。

三日目は展示作業です。最初に、展示ケース内にとどるように展示するのか、レイアウトづくりです。実物資料の大きさを測り、四点の出土瓦の展示位置を決めていきました。また、見せたい方向により、展示資料を固定しなくてはなりません。そこで、模擬展示を行い、うまく固定できるか確認しました。



高知東高校の職場体験の生徒さん

展示資料をどのように展示したら見やすいか……うん？



傷が付かないように、アクリルの台に資料をのせ、テグスを使い固定し、問題のないことが確認できました。実際の展示は、後日館職員が行いましたが、高校生四人による展示が完成しました。取り扱う資料にもありますが、実習生にとって、展示作業が行えたことは、貴重な体験になったと思います。また、文化財に対する見方も大きく変わってくると思います。そして、いつか高知の博物館に学芸員として戻って、ことを期待しています。(泉)

## 刊行物のご案内



### 土佐国分寺 —四国八十八ヶ所霊場①—

本年秋の特別展の図録。国分寺の創建から近世・近代の国分寺の歴史を物語る重要文化財の薬師如来や両界曼荼羅などの指定文化財などをカラーで掲載。論攷編も収録。

A4版 134頁 頒価1,050円(送料1冊340円)



### 石の仏 —土佐の石造美術Ⅰ— 土佐国石塔・石仏巡礼Ⅰ

本年春の企画展「石の仏—土佐の石造美術Ⅰ—土佐国石塔・石仏巡礼Ⅰ」の図録。土佐の層塔から板碑・五輪塔・宝篋印塔・石仏などを掲載。拓本も収録。

A5版 64頁 頒価800円(送料1冊210円)



### 開館10周年関連企画展 「居徳遺跡」

平成13年度の開館10周年関連企画展「居徳遺跡」の図録。居徳遺跡出土の土偶・木胎漆器・木製鎌・大洞式土器、縄文晩期から弥生時代前期の土器や石器をオールカラーで紹介。

A4版 48頁 頒価1,000円(送料1冊290円)

館受付で販売中。郵送希望者は送料とあわせて現金書留か郵便振込でお申し込みください。

口座番号 01610-2-61369  
加入者名 (財)高知県文化財団

岡豊風日(おこうふうじつ) 第52号  
平成一六年一二月一日  
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館  
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1-0-99  
TEL 0888-8622-2211  
FAX 0888-8622-1100  
開館時間 午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)  
休館日 毎週月曜日(祝日及び振替休日)  
にあたる場合は翌日、12月27日  
～1月1日、臨時休館日あり  
入館料 通常期(常設展)大人(18歳以上)  
450円・団体(20人以上)360円  
無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿  
手帳所持者、療育手帳・身体障害者  
手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・  
被爆者健康手帳所持者とその介護  
者(1名)  
印刷(株)飛鳥

歴史民俗資料館ホームページアドレス・Eメール  
http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/rekimin/  
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

## 平成16年12月～平成17年1月の催し物

### 特別巡回展

## 「発掘された日本列島2004」

### 新発見考古速報展

平成16年12月4日(土)～平成17年1月10日(月・祝)

平成17年は1月2日から開館します。

休館日 平成16年12月6・13・20・27～平成17年1月1日  
平成17年1月11～15日・17日・24日

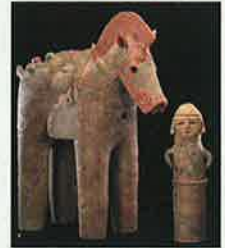
### 3階総合展示室・1階企画展示室

常設展示は民俗展示室と龍馬コーナーのみです

毎年文化庁が主催しております新発見考古速報展が8年ぶりに本県で開催されます。

旧石器時代から近代にいたる長い時代にわたる全国各地で話題を呼んだ考古資料を展示します。

また、考古速報展10周年を記念してテーマ展示「あの遺跡の今」として、青森県三内丸山遺跡・弥生人の脳が出土した鳥取県青谷上寺地遺跡の注目の資料も展示します。同時に県内の発掘調査の成果を紹介する地域展も開催を予定しています。



馬形埴輪と人物埴輪  
群馬県中原Ⅱ遺跡

### 同時開催 1階企画展示室 「土佐を掘る1」

高知県内の発掘調査の成果を紹介する県内版考古速報展です。土佐市居徳遺跡の出土遺物を紹介します。あの居徳人骨のその後の調査成果を公開します。

なお、「土佐を掘る1」は、特別展開幕後の平成17年1月16日(日)～平成17年1月30日(日)も開催します。

### 講演会

#### 演題:「最新日本発掘物語、そしてあの遺跡の今 —三内丸山遺跡—」

文化庁文化財調査官 岡田 康博氏

平成16年12月11日(土) 14:00～16:00

#### 演題:「土佐発掘物語—土佐市居徳遺跡をめぐる—」

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 主任調査員 曾我 貴行氏

平成16年12月12日(日) 14:00～16:00

会場:2階AVホール

定員100名(先着順) 葉書かEメールで住所、氏名、電話番号をご記入のうえお申し込み下さい。

### 展示室トーク

平成16年12月23日(祝・木)

平成17年1月2日(日)・1月9日(日) 14:00～15:00

会場:3階総合展示室・1階企画展示室

解説:当館学芸員 <申込は不要です>

#### 入場料

	大人(18歳以上)	団体(20人以上)
▶ 通常期(常設展のみ)	450円	360円
▶ 特別巡回展 発掘された日本列島2004	700円	560円
▶ 平成17年1月16日からの企画展 土佐を掘る1(常設展込)	450円	360円

#### 平成16年度の臨時休館と年末年始の休館のお知らせ

##### 特別展展示 替えのため

●平成16年11月29日(月)～平成16年12月3日(金)

●平成17年1月11日(火)～平成17年1月15日(土)

##### 年末年始

●平成16年12月27日(月)～平成17年1月1日(土)